

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

目まぐるしく変化する春

うす紫色の可憐なカタクリの花は、春の妖精と呼ばれ、花が少ない時季に真っ先に花を開花させ、時間が経つと花びらは外側に反り返り、僅かな風に小刻みに揺らぐ仕草は早春の林の中で一瞬の輝きを放ち、その姿は誰からも愛される素朴な花です。

落葉樹林ではヤマザクラが開花して木々の芽吹きが始まり、徐々に葉が繁茂して林の中から空を見ることができなくなり、葉の間から漏れる光で林床にあたる光が弱まるとカタクリの花は姿を消してしまいます。

花が終わった場所では、花の姿からは想像ができない怪奇な形の果実がみられます。果実は熟しながら、その形を変化させ、果皮が割れると褐色になった種が現れます。

カタクリの花が咲き終わった場所では、ミミガタテンナンショウ、ヤマドリソウ、チゴユリ、ウラシマソウがみられます。

落葉樹の林

春の訪れは地面に近い場所から草木の芽吹きが始まり、植物が活発になります。

コナラ、クヌギなどの若木は太陽の光が届かなければ大きく育ち生長することはできません。そのため、伐採や下草刈りなど、人間の干渉がなくなると林の内部は暗くなり、植生や生態系にも影響を及ぼしてしまいます。

新芽の明るい若草色やヤマザクラの赤茶色の若葉と花との対比の美しさは落葉樹林の魅力です。

